

協定校留学報告書

記入日	2022年6月10日
学部・学科	教育学部 学校教育教員養成課程 英語選修
学年	5年
(留学開始時の学年)	4年
留学先大学・国名	ウスター大学・イギリス
留学開始・終了時期	2021年9月～2022年5月(9カ月)

1. 留学前について

① 海外留学しようと思った理由は何ですか
高校時代の国際交流イベントと、大学2年での短期ボランティアに参加したことがきっかけです。やはり長期のプログラムも参加してみたいという気持ちがありました。
② この協定校に決めた理由を教えてください。
理由は主に3点あります。①イギリス英語を学べること②自分の興味のある授業を組み合わせ履修できること(留学生専用ではなく、正規授業)③イギリス文化の中での生活に興味があったこと
③ TOEFLの受験対策など、語学の準備はどのようにしましたか。
ウスター大学はIELTSのスコアが必須でした。そのことを知ったのが応募締め切りの4か月前だったので、かなりあせって準備を進めた記憶があります。TOEICよりは参考書の量が圧倒的に少ないので、先輩やネットでのレビューを参考に本屋やAmazonで購入しました。(使用参考書: IELTS公式問題集、実践IELTS英単語3500) また、スピーキングに自信がなかったため、「AI英会話スピークバディ」というアプリを購入し、毎日練習していました。語学スコアは協定校によって異なるので、早めに調べて対策を始めておくことをおすすめします!
④ 単位や教職、就職活動等に関して、留学前にしておいたほうが良いことがあれば教えてください。
単位: 単位としては、卒業要件を満たしていたのでそんなに考える必要はありませんでした。しかし、3年生以下の場合どのくらい単位が必要で、どのように単位換算がされるかを調べてから渡航する必要があると思います。 教職: 私は教育学部なので、留学後に教育実習と卒業論文が残っていました。渡航前に担任の先生や学務グループと相談しておくことが大切だと思います。留学中にそれらの登録や確認を行う必要があったので、定期的に茨城大学からのお知らせを確認する必要がありました。 就職活動: 私は4年で交換留学を開始したので、就活も留学中に進める必要があることがわかっていました。(3年で渡航予定の方も同じだと思います。)就活の年間スケジュールの確認と自己分析はできるだけしてから渡航しました。また、留学生用に「ロンドンキャリアフォーラム」というイベントがあったので、スーツも持っていきました。実際にはオンライン開催になってしまったのですが、就活のオンライン面接で何度も使用しました。
⑤ どのような保険に加入しましたか。()に○をつけてください。
a. 留学先大学が指定した保険 () b. 個人の保険のみ () c. 大学指定の保険と個人保険の両方 (○)

⑥ 予防接種は必要でしたか。()に○をつけてください。
a. はい () 具体的に： b. いいえ (○)
⑦ 留学先への入国手続きについて、どのように準備しましたか。 (査証申請手続きや新型コロナウイルスにかかる水際対策対応の手続き等)
査証申請：派遣先大学側からの書類が必要だったので、こまめにメールで連絡をとって手続きを進めました。それでも出国予定日に間に合わなかったため、早めに自分で何が必要かを確認しながら進めることが大切だと思います。また、パスポートの期限が留学期間中に切れてしまうと申し込めないため、事前に再発行する必要があります。私はこれにギリギリ気が付いて、すごく焦ったのを覚えています…。査証の申請場所は、東京か大阪のどちらかで予約も必要でした。 コロナ関係：出国前と出国後に、思い出したくないほどの(笑)たくさんの制限や手続きがありました。(現在は改善されていると思いますが…) ワクチン接種、PCR検査、隔離などです。外務省や大使館等の公式情報をこまめにチェックすることを心がけていました。

2. 留学先での勉強について

① 留学先で履修した科目名、時間数、授業内容についてなるべく詳しく教えてください。
<p>前期 (Semester1)</p> <ul style="list-style-type: none"> •LANG1003: Improving English Usage and Style in Academic Writing (for non-native speakers of English) 基本のアカデミックライティングについて学ぶ授業です。まだまだ自分の英語力が心配だったので履修しました。ほとんどの授業にレポートやエッセイがあったので、履修しておいて本当によかったなと思います。便利な語彙や表現なども学ぶことができ、先生も優しくわからないところを教えてくださいました。英語力に不安がある方は取っておくと安心だと思います。 •LANG1012: Introduction to Teaching English as a Foreign Language (Language Awareness) 英語を外国語として教えるスキル (TEFL) を学ぶ授業です。後期の LANG1013 と連携した授業で、前期では学習者が間違えやすいエラーを中心に学びました。教育学部で学んだ知識を生かしながら、ネイティブ・ノンネイティブ視点で学ぶことができたのが楽しかったです。 •EDST2142 - Mentoring and Coaching within Education コーチングのスキルについて学ぶ授業です。今後社会人になる上でコミュニケーションスキルを向上させるためにも履修しました。どのように相手の課題を聞きだし対応していくか、基礎から学ぶことができ、授業の中でもグループワークが多かったため、楽しかったという印象が強いです。留学生が私だけでしたが、先生も丁寧な対応でしっかりアレンジして教えてくださいました。 •SOCG1105: Democracy in everyday life 社会におけるデモクラシーについて学ぶ授業です。これからイギリスに住むということで、イギリス社会について知るという点からも履修を決めました。選挙や社会保険など、日本とは異なる仕組みについて知ることはもちろん、人々と民主主義の関係性についても深く考えるきっかけとなりました。自分がいかにぼんやりと生きてきたかを実感しました。社会情勢や日本の将来について広い視野で見ることができるようになったため、履修してよかったと思える授業の一つです。 <p>前期 (Semester 2)</p> <ul style="list-style-type: none"> •LANG 1013: Introduction to Teaching as a Foreign Language (Teaching Skills)

前期の LANG1012 の続きで、主に教育者目線での英語教授法について学びました。実際に授業案を作成することが最終レポートであり、日本の授業案との違いを比較しながら学ぶことができたので楽しかったです。また、前期から履修していた他の学生も多かったため、授業中の雰囲気も良く協力し合いながら勉強することができたと思います。また、英語を学習する際の難しさや懸念点を教師と生徒双方の目線から考えられる授業であり、得る知識が多かったと思います。

・ELAN3011: Introduction to Language Acquisition

言語習得の過程を、母語と母語以外にわけて学習する授業です。前期の授業を通して英語の言語習得に興味が強くなったため履修しました。英語を教えるという観点においても、第二言語習得特有の特徴があることを知ることができました。自分の興味のある分野を、異なる視点から学ぶことの楽しさについて知ることができた授業でもあったと感じています。ただ、専門的な語彙や知識が多いため、予習・復習をしっかりとついでいくのが難しいと思いました。

・PSYC2544: Psychology in the Real World

世の中で使われている心理学について、実例を用いながら問題解決型のスタイルで実施された授業でした。心理学にも興味があったため、教育の分野ではなかったですが、履修を決めました。基本はグループで議題に対して話し合い、商科大をまとめるという形式でした。グループメンバーには恵まれましたが、心理学の知識がなかったので、苦労しました。知識というよりは自分たちが調べながら理解を進めるので、自分が想像していた授業内容ではなかったと言えます。ただ、プレゼンや授業で新しくできたつながりもあったので、貴重な経験になったと感じています。

・BMGT2221: Developing Employee Talent

ビジネスにおける HR (Human Resources) や L&D について、それらの視点から必要なスキルについて学び実際のケーススタディをもとに解決案を作成するという授業でした。来年から社会人でビジネススキルも身につけておきたいと思い、履修を決めました。心理学同様、専攻外の分野であったため、かなり理解するのが難しかったです。また、グループメンバーとごたごたがあり、一番苦労した授業でした…。課題も 3000 字のレポートがかなり重かったため、大変でしたがその分達成感が得られる授業だったと感じます。茨大では学ぶことのできない内容も学ぶことができたので、総合的に判断して履修してよかったと感じています。

② 授業履修の際に、注意したほうがいいことがあれば、なるべく具体的に教えてください。

1. 授業の難易度

授業コードの最初の数字は、履修基準学年を示しています。つまり、1 が 1 年生で 3 が 3 年生です。1 は基礎的な内容に加え、課題の取り組み方も丁寧に説明してくれるものが多いですが、2・3 はこれまでの学習の事前知識を前提に進められ、課題もレポートの形式など、細かいことは説明されない傾向にあります。ですので、履修時のレベルチェックと教授への確認メールをしておいたほうが安心かもしれません。授業が始めるまではポータルのようなサイトで変更可能なので、そんなに焦らなくても大丈夫です！

2. 評価方法

基本、出席点は加味されません。課題の点数がそのまま成績に反映されます。課題内容は、レポート、エッセイ、プレゼン、リフレクティブライティングなど様々です。また、グループなのか個人なのかといった点もシラバスで確認できるので、バランスを見ながら選択することが大切だと思います。私はプレゼン力もあげたかったので、前期と後期の両方でプレゼンが入っている授業を選択しました。

3. 人数と留学生の比率

私の履修した授業は 7 人～50 人まで、授業ごとに人数が大きく異なっていました。また、アカデミックライティングの授業は全員留学生でしたが、他の授業はほとんど現地の学生（留学生はいても 1, 2 人）でした。それぞれで学習の雰囲気も全くことなり、やはり留学生が一人だととても緊張しました。ですので、

1 学期は留学生が多めの授業を多めにとったり、少人数で教授のサポートが行き届きやすい授業を入れておいたりすると一つの安心材料になるかもしれません。ただ、正規授業で現地の学生と同じフィールドで受ける授業はとても魅力的であり、自身の成長にもつながったと感じています。

③ 授業に関して、困ったこと、うまくいったこと、努力したことなど、教えてください。

・大変だったこと

一番大変だったことは、課題の違いです。基本的に参考資料を読み込んでアカデミックなスタイルでレポートを作成する必要があるため、事前にその知識を持っていないとかなり大変だと感じました。また、剽窃も厳しく判断されるため、教授やイギリス人の友人に添削をお願いしてもらい、なるべくケアレスミスが少ない状態で提出できるようにしていました。

・困ったこと

ある授業でグループワークがあったのですが、4人中2人が発表当日に来ないという事件がありました。しかも1番目の発表なので準備もできず、すごく焦りました。幸いにも、担当外のパートも目を通していたので乗り切ることができましたが、かなりグダグダになっていたと感じます。普段から生徒同士のコミュニケーションも大切に、もっと自分から話しかけておけば変わっていたのかなと後悔したことです。

・努力したこと

事前に立てた目標として、授業中に1回は発言・質問をすると決めていました。ですので、少しでも疑問に思ったら自分から手を挙げて質問をすることは意識的に行いました。毎回できたわけではなかったですが、最初よりも自信をもって積極的に授業に参加できるようになったことを実感できたので、やはり受け身でなく自分から学びに行く姿勢は大切だと感じました。タイミング関係なく気になったら手を挙げて聞く姿勢が大切にされていますし、ただ座っているだけだと教授からも生徒からもあまりやる気がないんだとみなされてしまいます。

・アドバイス

私は授業を一緒にとる友人が最初からいたわけではありませんでした。そんな中ですでにグループができていたり、留学生として肩身が狭く感じたりと不安は沢山ありました。しかしそんなに気にしすぎず、自分から隣の人やグループが一緒になった人に話しかけてみてください。思った以上にみんな優しく対応してくれますし、日本に興味がある学生も多く、新しい友達を作るチャンスにもなります。やはり失敗を恐れずに自分から行動する姿勢はとても大切だと思います。

[前期] 時間割 (1コマ基本3時間です。間に5分程度の休憩をとることが多かったです。)

	月	火	水	木	金
1					LANG1012
2				SOCG1105(1h)	
3		EDST2142			
4	LANG1003				
5			SOCG1105(2h)		

[後期] 時間割

	月	火	水	木	金
1	ELAN3011				
2					PSYC2544
3					

4			LANG 1013		
5				BMGT2221	

3. 留学先での生活について

① 大学がある町やキャンパスの雰囲気はどうでしたか

近くに川があり自然も多いので、とても穏やかな雰囲気でした。イギリスで 2 番目に安全な町とも言われており、街中で会う人も優しく、危険な目に合うことはありませんでした。キャンパスは St. John campus と city campus がありますが、どちらにもカフェが併設されています。St. John の方には 24 時間使用できる勉強スペースもあり、試験前など集中したいときによく利用していました。また、大学にキャンパスキャットという猫が住んでおり、キャンパス内を歩き回っております笑いつも癒されておりました。猫好きな人にもおすすめです！！笑

市内中心部には大きな図書館やスーパー、駅などがあり、基本困ることはありません。アジアスーパーもあるので、日本のお米や調味料を購入することもできます（割高ですが、）。

コンパクトながら大聖堂や歴史的な建造物が多く、伝統的なイギリスの街並みの中でゆったりと生活できます。個人的には田舎で育ったので、自然豊かなウスターはとても住みやすい場所でした。

② 留学中はどこに住んでいましたか。

- a. 寮（○）： 何人部屋でしたか（1人）
- b. アパート（ ）： 何人部屋でしたか（ ）人
- c. ホームステイ（ ）： 何人部屋でしたか（ ）人
- d. その他（ ）具体的に：

③ 住むところはいつ頃、どのように申し込みましたか？また、どのような選択肢がありましたか？

大学からの案内があり、渡航の 1 か月前に申し込みをしました。選択肢としては他にプライベートハウスがありました。プライベートの方が大学寮よりも少し安かったです。しかし、その場合は自分で調べてコンタクトをとる必要がありました。一方、大学寮は大学の担当者とのメールやり取りで完了できたので、手続きとしては不安が少なかったです。コロナの隔離の懸念点もあり、大学寮に決めました。寮にもタイプがあり、私は standard plus を選択しました。1フロア 6人で、中国人 2人、イタリア人、スイス人、スペイン人の女子学生と一緒に生活をしていました。部屋の中に洗面台があり、トイレとシャワー、キッチン他フラットメイトと共有です。台湾からの留学生の友人は、自分以外全員イギリス人だったと言っていたので、一緒に住むメンバーが留学生とは限らないようです。希望があれば事前に伝えておく配慮空いてくれるかもしれません。

④ 住環境（建物の場所、お部屋の間取りや設備、ルームメイト等）はどうでしたか。

私の住んでいた寮は St John のキャンパス内にあったので、授業に行くのにも 5 分くらいでした。一番近いスーパーやジムには 20 分くらい歩く必要があります。またショッピングができる市内も 20 分くらいかかりますが、川沿いを歩くことができ景色が良いのでとくに苦には思いませんでした。大学で自転車を借りること（有料）もできますし、バスもあるので心配はいりません。私の部屋は 3 階の角部屋で、6 畳くらいでした。机やデスクライト、ベッド類もついているので家具は特に用意する必要はありませんでした。ただ椅子を引いたらすぐベッドなので、ちょっと狭いかな？という印象です。収納はかなりたくさんありました。キッチンは設備が豊富で大きく、自炊をするのにも十分でした。冷蔵庫・冷凍庫は他のフラットメイトと共有する必要があり、スペースや食材消費の問題で話し合いをすることもありました。ただ、それ以外はお互い出身国の料理のシェアをしたり、誕生日ディナーでお祝いしたりして、とても楽しく寮生活を送ることができました。友人はフラットメイトと

のいざこざで違う寮に移動していたので、ある程度運なところはありますね…。

⑤ 食事はどうしましたか。

- a. 大学・寮のミールプラン ()
- b. 主に外食 ()
- c. 自炊と外食が半々程度 ()
- d. その他 (○) 具体的に： ほぼ自炊

(補足説明)

イギリスは物価が高く、外食だと1食1,500円程度かかってしまいます。また、スーパーだと野菜や冷凍食品が日本よりも安く手に入ることが多いので、自炊が基本でした。現地でしか見ない食材で料理をするのも楽しく、勉強の息抜きもなっていたので良かったと思います。大学内に学食やカフェ、コンビニショップがありますので、そこで調達することができます。また、使用はしませんでした。UberEats や deliveroo などのデリバリーサービスもありました。市内にはレストランもたくさんあります (Yo!Sushi という日本食チェーンもありますが、日本で食べる寿司とは異なり、高いですね、)。

⑥ 留学先で他の留学生や現地学生とどのように交流を深めましたか。

まず、大学の寮に住んでいたため、一緒に住む人はみんなウスター大学の学生でした。留学生の SNS グループ (WhatsApp) があり、そこで連絡を取りながら寮のフラットに集まってパーティーをすることもありました。また、留学生対象のイベントも豊富で、ハロウィンのかぼちゃ狩りやハリーポッタースタジオツアーなどがありました。そこで新しく出会い、定期的に遊ぶようになった友人もいます。現地学生とは授業中で同じグループになったり、ヨガサークルに参加してであったりする人がメインでした。私はたまたま行ったカフェの店員さんが日本語を勉強しており、そこから仲が良くなったイギリス人もいます。交流の機会があれば積極的に参加し、とにかく新しい出会いを大切にすることを心がけていました。

⑦ 余暇や長期休暇はどのように過ごしましたか。

余暇は、基本的には授業の予復習に使いました。また、就活もあったため、面接対策やオンライン説明会・面接に多くの時間を費やしました。前期後期の後半は、最終課題にほとんどの時間を費やしていたなあとと思います。少し余裕があるときは、キッチンが広く大きなオープンもあったので、お菓子作りをしてみんなと共有するのも楽しかった思い出です。土日や長期休みは、旅行に行きました。留学生対象のイベントではイギリス内の都市を観光したり、個人的に友人とヨーロッパ旅行にも行ったりしました。クリスマス休暇ではドイツ、2 学期終了後にはイタリアに行きました。格安航空で安く、2 時間程度で行けるため、他の国も楽しめるという点でも欧州留学の魅力があると思います。また、学割の聞く観光スポットも多かったためお得に旅行できるチャンスだなとも思いました。

⑧ 健康管理や危機管理で注意したことについて、アドバイスがあれば具体的にお願いします。

イギリスの冬は日照時間が短く、雨も多いためビタミン D のサプリを購入して摂取していました。効果があったかはわかりませんが、特に落ち込んだり精神的につらくなったりすることはほぼありませんでした。おすすめしてくれたイギリス人の友人も多くのイギリス人はサプリで冬を乗り切っていると言っていました。また、日本からの風邪薬を持参して、少し体調の変化を感じた際にはなるべく早めに服用し、重症化しないように心がけていました。

危機管理面では、常に外出する際自分の荷物に気を配っていました。例えば人ごみの多いところではジッパー付きのバックを持っていったり、レストランでの食事では自分の見える範囲に荷物を置いたりなどです。ウスターはイギリスでも安全な街と言われていますし、自分自身が被害にあったことはありませんでした。ただ、ロンドンやほかの大きい都市にいくと窃盗被害率も増加するので、常に警戒しておくことが大切だと感じました。また、南京錠が一つあると便利だと思います。私はジムのロッカーの施錠や、ホステルでの荷物施錠に使っていたので何かと助かっていました。

⑨ 文化、習慣、宗教の違いなど、生活全般 (衣食住) に関するアドバイスがあればお願いします。

街の雰囲気から、生活する中での周囲の人の違いなど、私は意識をせずとも強く感じていたと感じます。アジア人率も低かったので、自分がいかにマイノリティであるかということを感じていました。宗教面で困ったことはありませんでしたが、やはり自分や日本の宗教観について英語で説明できるようにしておいた方が、会話に困らなくて済むかもしれません。習慣面で一番感じたのは、衛生面ですね。基本おしぼりは存在しませんし、パソコンを触った手で普通にお菓子をお菓子を食べている学生もたくさんいました。潔癖ぎみだなという方は、慣れるまで時間がかかるかもしれません、またウェットティッシュも日本製ほどの高品質なものはないので、事前に用意して持っていくと安心かもしれません。食に関しては「イギリスは料理があまりおいしくない」というイメージを抱いている方も多いと思います。でもそれは否定できます！基本はおいしいですし、他国の食文化が浸透しているので色々な国の料理を楽しめます。ただ日本と比較してしまうと値段の割にこれか、となってしまうことも多いので、いったん日本の食の水準は忘れて、イギリスでの食事を楽しむ気持ちだけもっていきましょう（笑）

4. 留学費用について(差支えない範囲でお答えください)

※各費用の下の空欄には補足事項をご記入ください。どんな些細な情報でも大歓迎です。

留学前

査証申請費	55,000 円
申請は東京か大阪のオフィスで行う必要があるため、+交通費。	
渡航費(往路航空運賃)	200,000 円
JAL の羽田→ロンドン直行便。	
海外旅行保険代（出発前に日本で加入したもの）	112,000 円
コロナ水際対策費用（陰性証明書、隔離費用、移動費等）	30,000 円
渡航前の PCR 検査代と、イギリスでの 2 日目・8 日目の PCR 検査代。	

留学中

授業料（有料コースを受講の場合）	0 円
有料コースなし。	
授業料以外の学費（教材費や登録料）	400 円
印刷代のみ。参考書はオンラインブックか図書館を利用。	
現地で加入した保険料	100,000 円
イギリスの国民保険代	
住居費（寮費）	940,000 円
大学寮。水道・光熱費込み。	
住居費（寮費以外の費用、光熱水料やインターネット）	0 円
インターネットも大学の wifi が通っていたので支払い等なし。	
食費（自炊・外食の有無）	100,000 円
基本自炊。外食は、友人と外出する以外は利用していない。	
通信費（SIM カードや現地でスマホ購入等）	5,000 円

日本で SIM カードを購入し（Amazon）サブケータイに入れて使用。基本 Wifi があることをわかっていたため、プリペイド方式で 3 回ほど補充。	
交通費（通学に必要なバスや休日市内での公共交通機関）	60,000 円
通学は徒歩のみ。旅行時の電車、バス、飛行機代。	
娯楽費（国内旅行に行ったり）	70,000 円
国内・海外旅行時の費用。	
その他生活費	60,000 円
日用品類	
渡航費(復路航空運賃)	98,000 円
ポーランド航空のワルシャワ経由ロンドン→成田を利用。追加荷物代 7,000 円を含む。	
留学先でのお金の管理方法（クレジットカード、デビットカード、現地での口座開設等）	
基本的に Revolute というオンラインバンクを使用していました。クレジットカードと事前にポンドに現金化しておいた 2 万円でやりくりしていました。しかし、途中で日本への配達物が届かないアクシデントがあり、小切手での返金手続きをする必要がありました。イギリスの銀行にのみ返金可能であったため、現地口座も急遽開設しました。（HSBC）	

留学経費の負担について

留学のための奨学金等や助成金を利用した場合は以下もご記入ください	
奨学金名	
応募方法	

5. 今後の進路等について

① 卒業時期について教えてください。（わかる範囲で結構です）○をつけてください。
a. () 4 年で卒業予定
b. (○) 卒業は延期する予定（延長予定期間： 1 年)
② 就職・進学のための活動について教えてください。（留学中にしたこと、留学後の予定など）
留学中に就活をしました。使用した就活サイトは、留学生限定の「CFN」、「マイナビ」の 2 つです。特に 1~5 月は説明会や面接も本格化してかなり大変でした。時差が一番の問題で、夜中の時間帯にほとんどの選考があったので、かなり計画的に進める必要がありました。渡航前は就活を並行して行う覚悟を持っていったものの、時差は盲点でした…。ただコロナのお陰もあり、オンラインで選考を進められるようになったことは大きなメリットだと思います。実際に留学中に内定をいただくこともできました。今後は対面でのイベントに参加して最終決定をしたいと考えています。学業面では教育実習と卒業論文の執筆が必要です。留学中にこれらの準備や履修の必要がある場合もあるので、留学前にも事前確認をおこなっておくことが大切だと感じました。

6. 留学について

① 留学を終えての感想を教えてください。
率直に、交換留学という経験ができて本当に幸せだったと感じています。渡航前はコロナや自分の将来のことで悩み、留

学も諦めかけました。しかし、実際に10か月の留学を終えて、留学を決意して実行したことに對し、後悔は一切ありません。勉学面での学びはもちろんですが、それ以上に現地で生活するという経験は、経験した人にしかわからないものだと思います。異なるバックグラウンドを持った人たちとの交流、外国人として生きる大変さ、異文化の中でのワクワクなど、数え切れない学びが広がっている世界でした。もちろん大変なことも多かったです、それ以上に楽しかった思い出も多かったです。日本以外でも一生関わっていききたいという友人ができたことも、自分の人生において大きな変化になったのではないかと感じています。

② 留学して、何が変わったと思いますか。

まずは、英語力の向上です。ペラペラになったわけではありませんし、TOEICの点数も上がっているかわかりません。ただ確実に言えることは「自分の英語は現地でも伝わるし、コミュニケーションもとれる」ということを実感できたことで、英語を使うことに対する自信ができました。たまたま他に日本人学生がおらず、常に英語でのコミュニケーションを強いられていたことは、自分にとって大きなメリットだったと感じます。次によくありがちですが、やはり自分自身の価値観が変わったと思います。変わったというか、より物事に対する視野が広がったという実感があります。自分の当たり前は、誰かにとっては当たり前ではないですし、逆も然りです。より多様な考えを尊重していく姿勢を大切にしていこうと思えるようになりました。そして、自分のことは自分でやるということが基本でしたので、以前よりは自分の意見もしっかり伝えられるようになったと感じています。また、日本を客観的に見ることができ、より日本の良き文化に感謝できるようになったり、逆に変化が必要ということ、当事者意識をもって考えられるようになったりしたと思います。日本という国や日本人としての自分を客観的視点で考えるようになったことも大きな変化の一つであると感じます。

③ 留学を考えている人へのメッセージをお願いします。

なんらかの理由で「留学いつてみたい」と考えている人がこの報告書を読んでいると思います。私個人の意見としては、ぜひ、チャンスがある限り挑戦してみてください。留学を通して得られるものは必ずあると考えるからです。CMや留学サイトにあるようなキラキラなことばかりではありませんし、むしろ地味に、1人机に向かって勉強する時間の方が多かったです。しかし、交換留学をして得た学びは何事にも代えがたいですし、人生の中でも大きなターニングポイントにもなりました。しかし、コロナや円安の影響で、留学を諦めかけている方も多いと思います。もし、何もせずに諦めようとしているならば、もったいない気がします。私自身、渡航前の夏にコロナによる交換留学中止の通告がだされ、ほぼ諦めかけていたところでの再開でした。留学への想いが伝わったのかなと感じた瞬間であり、英語力や渡航の準備を諦めずにやってきて良かったと心から思えた瞬間でもありました。私は時期が遅く利用できませんでしたが、奨学金もたくさん種類があります。ぜひ留学経験者に話を聞いたり、周りの人を頼ったりしながら、自分にとって最適で後悔のない選択をしてほしいなと思います。（もし、ウスター大学に興味があれば、ぜひ私にも相談してくださいね！）

7. 留学中の写真

留学中の様子が分かるような写真をいくつかこの下の空欄に貼り付けるか、もしくはメールでこの報告書を提出する際にメールに画像を添付してください。

例) 寮、授業の教室、食堂、キャンパスの風景、街中の様子、などなど

※写真はグローバル教育センターのホームページに掲載させていただきたいので、他の人に見られても良い写真を選んでください。また写真に自分以外のお友達等と一緒に写っている場合は、その方に許可をとってから提出してください。



